



ながの環境パートナーシップ会議
令和5年度活動成果報告書

手をむすんで



\ようこそ/
ながの環境
パートナーシップ会議へ

ながの環境パートナーシップ会議は、
市民・事業者・行政の三者が
連携協働し、様々な環境保全活動を
進めていく組織です。

ながの環境パートナーシップ会議

令和5年度活動成果報告書の 発行に寄せて



1992(平成4)年、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット(環境と開発に関する国連会議)」で、持続可能な発展のための人類の環境行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて地域行動計画「ローカルアジェンダ」作りが行われ、長野市では2003(平成15)年に、ながの環境パートナーシップ会議(以下P会議)と協働で「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を策定し、市民・事業者・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。

地球環境問題は、1997年「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」、さらには2015年の温室効果ガス削減に関する国際的取り組み「国連気候変動枠組条約締結会議(COP)」通称パリ協定という国際的な枠組での活動となっています。更に、2015年9月「国連持続可能な開発サミット」が開催され150を超える加盟国首脳に参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能なための2030アジェンダ」SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)2030年に達成すべき目標」として掲げられました。私たちは、地球環境と未来の社会を次の世代に繋いでゆくために、持続可能な社会構築の指針となるSDGsを意識してプロジェクト活動に取り組んでまいります。

CO₂など温室効果ガス排出量の増大は、地球温暖化の加速による気候変動が集中豪雨や氷河融解、熱波による森林火災や干ばつなどを引き起こし、居住地焼失、農地荒廃さらには生態系異常をもたらし、食料不足、コロナ禍などから私たちの生活基盤を崩壊させ、貧富の拡大など災いの元となっています。そこで、温室効果ガス排出量を減らすため化石エネルギーからの脱却、再生可能エネルギーへの変換、生態系にやさしい農業などは急務です。

しかし、格差、暴動、侵略戦争などによる世界情勢の変化が化石エネルギーからの脱却を遅らせ、温暖化による異常気象が世界中で洪水や山火事を頻発させているのが現状です。「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した。」とは国連事務総長グテーレスの言葉です。(2023年7月27日、国連本部での#世界気象機関 #WMOの報告書)沸騰化は始まっているのか。沸騰したら地球は終わりです。地球規模の分配、調整、秩序が求められ、地球環境を地域市民目線で考える時です。気候正義、エネルギー正義、市民正義これらを纏めて地球環境正義、と私は呼んでいます。

代表理事二期目の就任において思うことは、総会でも質疑のあったP会議の在り方について、設立当初の目的である長野市環境ビジョン「アジェンダ21ながの一環境行動計画」ならびにアジェンダの実行組織であることを鑑み、各プロジェクトチームの活動実態と大きな目的への事業をどう展開するかを議論する必要があります。

市民一人ひとりが、科学的データによる知見や予測は知らされて頭では理解できても、感情や精神が働かなくては行動に結びつきません。そこで、例えば気候変動問題は、温暖化の原因であるエネルギーの効率化、再生化であり、公共交通や自転車の利用を進めることであり日常の生活を見直し小さな一歩を日々実行することです。このように生活の質を変革し市民に根差すように取り組むためには、市民性を目標にネットワークを広げ納得感を合意形成(共有)することではないでしょうか。私は、そのために気候市民会議を長野市で開催することを提案します。今、身近な生活スタイルを見直すことで、身近な環境問題を次世代が生き抜くために、年齢を問わず何を選択し何が実行できるかの足掛かりになると思います。

P会議では、生物の保護育成、森づくり、里山の保全、生ごみの再生利用など自然と人が共存できる環境保全活動を実践しながら取り組んでいます。環境先進都市づくりの一翼を担うP会議の活動を市民に知っていただき、より多くの市民・事業者・行政の方々に参加いただきたく発行いたします。

令和6年9月
ながの環境パートナーシップ会議
代表理事 河西 弘明

| | |
|------------------------------|----|
| 活動成果報告書の発行に寄せて（代表理事あいさつ） | |
| ながの環境パートナーシップ会議の紹介 | 1 |
| 令和5年度（2023年度）活動報告 | |
| 環境活動発表会 開催報告 | 3 |
| 生ごみ削減・再生利用プロジェクト | 4 |
| 市民の森づくりプロジェクト | 6 |
| 松代オオムラサキの里 | 8 |
| ゴマシジミ保護・育成プロジェクト | 10 |
| 田中さくら公園づくり＆里山づくりプロジェクト | 12 |
| 若槻廃食用油回収プロジェクト | 14 |
| 信州大学工学部環境学習における活動報告 | 16 |
| プロジェクトサポーター＆賛助会員制度の紹介 | |

ながの環境パートナーシップ会議の 活動を紹介します

ながの環境パートナーシップ会議は、市民・事業者・行政が連携し、長野市環境基本計画を推進するための組織として、平成13年6月に設立。

「アジェンダ21ながの一環境行動計画」に基づき、「長野市環境ビジョン」の実現に向け、「つなぐ」「伝える」「実践する」を念頭に、各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいるほか、各種団体事業を支援しています。



本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しています。



本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しています。



各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しています。

活動の様子や、お知らせを随時発信しています

公式HP

<http://www.nagano-ep.net/>



公式X（旧Twitter）

@nagano_ep



「アジェンダ21」ってなに？

1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（環境と開発に関する国連会議）で「アジェンダ21」が採択されました。アジェンダ（agenda）とは「課題」のことであり、アジェンダ21とは「21世紀にむけての課題」という意味です。

アジェンダ21では、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、地域版のアジェンダ21の策定が求められ、地域に根ざした地球環境保全の取り組みが推進されました。

「アジェンダ21」から「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」へ

2015年にニューヨークで開催された国連持続可能な開発サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

2030年までに達成を目指す目標が「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」であり、「アジェンダ21」で取り上げられた環境の持続可能性を開発目標に取り込もうという視点もSDGsに取り入れられています。



ながの環境パートナーシップ会議は環境保全活動を推進していきます

ながの環境パートナーシップ会議は、地域版のアジェンダ21である「アジェンダ21ながの一環境行動計画」の策定に併せて、長野市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」を次のように定め、これを実現する組織として複数のプロジェクト活動を推進しています。

そして、SDGsの目標達成に寄与するよう、市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。

○長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星
自然と和して発展するまち・人のくらし
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民のくらしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。





令和5年度ながの環境パートナーシップ会議自主事業

環境活動発表会 開催報告

開催日時 令和6年2月23日(祝) 10:00~12:00

会場 長野市ふれあい福祉センター 5階大会議室

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが変更となり、様々な行動の制約が解除されたことから、本会の主催による交流イベントとして「環境活動発表会」を開催しました。

このイベントでは、長野市内の中学生、高校生と各プロジェクトチームが、それぞれの環境活動について発表しました。若い世代と本会員が互いの環境活動について理解を深め、今後の活動に活かしていく良い機会となりました。



外来生物対策



▲信州大学教育学部附属長野中学校 ザリガニバスターズ

駆除したアメリカザリガニの殻でチョークを製作したと発表。市販チョークの品質に近づけることが難しかったと語った。



山の環境保全



▲長野県長野工業高等学校 課題研究グループ(卒業研究)

飯縄山の登山口に設置する携帯トイレの自販機と山小屋常時換気システムの製作について発表。自販機にはカプセル式(通称ガチャガチャ)を採用したと説明。



ゴミ拾い・ポイ捨て対策



▲長野県松代高等学校 one team

全国の高校生がゴミ拾いで競う「スポGOMI甲子園」に出場した体験を語った。また、ポイ捨て対策として製作した「タバコの吸殻を捨てるゴミ箱」を発表。



会員からの発表



▲本会の各プロジェクト活動報告

発表者の皆様、
ありがとうございました。



生ごみ削減・再生利用プロジェクト



生ごみチームと キッズ生ごみ農園クラブ



令和5年度(2023年)の生ごみ削減の啓蒙活動は、住民自治協議会と長野市の協力で生ごみ堆肥化講座を安茂里と若槻の支所で開き、地域住民と共に信州大学工学部の学生3名が地域環境演習ⅠとⅡの学習として参加しました。そして、再生利用の実践活動は、キッズ生ごみ農園クラブの会員に生ごみを持参して頂き、ミミズコンポストに投入してもらいます。会員とスタッフで野菜や麦や豆を栽培して食と農の循環活動を実践しています。

農場は、落合橋下流の河川敷で広い空と緑に囲まれた空間です。会員は、大きく息を吸いゆったりとした作業を通じて生ごみ堆肥による有機・無農薬栽培の価値を理解し、地域で命を育む健康な作物を共に作る喜びを感じて頂けているのだと思います。農園で育てている作物は、固定種(在来種)の採種、播種・育苗を行い、ナス・トマト・キュウリなどの夏野菜を始め、芋類、麦類、豆類、葉物野菜など50種以上です。作業は、耕運、肥料作り、施肥、草取り、麦踏みなど忙しいのですが、夏と秋の収穫祭や冬には納豆作りなどのイベントをして年中活動しています。今年はかねてから念願の大看板を、学生の協力により手作り設置しました。(写真上)

会員が生ごみを持参し堆肥化で減らす生ごみの量は、長野市全体から見ればほんの僅かですが、こうした地道な活動が生ごみは可燃ごみとして出すものではなく、野菜などを育てる資源として有効活用できます。そして、その生ごみ堆肥で育てた野菜が美味しいことをより多くの市民に知っていただきたいと思います。

主な私たちの活動を紹介します

収穫祭やランチ会で味わう



ジャガイモ掘り



スイカ冷やして



ランチ会



親子で麦踏

夏は家族会員の親子16名と学生3名が、メイクーンと男爵ジャガイモ約200kgを収穫して、汗をかいた後は冷えたスイカをほおばり、特製のジャガイモキッシュを戴きました。みんなで作業した後は、ランチ会などで楽しく交流しています。

会員は親子で種まきから施肥や草取り作業をしますが、それを学生がスタッフと共に助け合っています。生ごみ堆肥で育てたジャガイモ・大根・トマト・ナス・キュウリ・スイカなどの野菜を農場で味わったり、持ち帰っていただきます。大地の恵みが生ごみの循環で育つことを実感する瞬間です。親子で麦踏は、今ではなかなか出来ない貴重な体験です。あなたも、一緒に参加してみませんか。

親子で生ごみ堆肥作り

キッズ生ごみ農園では、ミミズコンポストが大活躍です。会員は、農場に来る時、ミミズのエサになる生ごみを1kg以上持ってきます。木製の1.6m四方で深さ30cmのミミズコンポストに投入します。中には約1万2千匹のシマミミズが生ごみを食べて堆肥にしてくれます。ミミズの糞は良質な堆肥になり、ふるいに掛けて、鶏ふんと混ぜて元肥と追肥に使います。



生ごみをミミズコンポストに投入



堆肥をふるい掛け

安茂里自治協主催の生ごみ減量講座

6月10日、安茂里住自協の環境部員を中心に17名と信大工学部の地域環境演習Ⅰ履修の学生3名が参加、生ごみを自家処理するために生ごみ堆肥化の発酵等について学びました。生ごみ発酵基材ピタピー5の説明や専用段ボール箱の組み立ての実習、堆肥作りのコツとその堆肥を使った花や野菜の育て方など資料を配布して説明。生ごみ減量アドバイザーの女性は、食材は余分に買わず無駄なく使い切ることを。そして、生ごみ堆肥で育てたコンテナのサラダ菜やハーブを見せてペランダでも台所でも育てることが出来ると紹介しました。





アモーレフェスタで野菜の販売

10月29日安茂里自治協主催のアモーレフェスタに参加。裾花中学のマーチングバンドやありくま劇団による歌とトークショーの賑わいの中で展示出店をしました。「生ごみを減らす活かす」の看板やのぼり旗を掲げ、チラシを配布して生ごみ削減を呼びかけました。

にわか雨で中断しながらも、キッズ生ごみ農園で生ごみ堆肥を使って育てた、大根・菊芋などの有機無農薬野菜の販売は予約もあり完売でした。

秋の収穫祭で交流会を

11月23日、恒例の秋の収穫祭です。広々とした農場に家族会員23名と学生3名が参加して、大根・小松菜などの葉物や菊芋とソルガムの収穫をして、足踏み脱穀機で脱穀してとうみ掛けもしました。更に、来年収穫のライ麦と大麦の種まきもしました。

収穫の後は、自分たちで育てた大根とジャガイモに人参・ゴボウ・キノコ・豚肉・さつま揚げなど具たくさんすいとんを作り、原木のベンチに座り焚火をしながら戴きました。味の決め手は、手造りの味噌に自家製醤油を少し入れた特製で、美味しいので何杯もおかわりし、味噌造りを教えてと花が咲きました。(味噌造りは、親子参加で2月に行いました)

参加者は、みんなで育てた有機・無農薬の大根や葉物野菜を持ち帰っていただき、作業は大変だけどその味は苦労を忘れさせてくれると充実感であふれていました。



わらづと納豆作り教室

2月25日、一般公募によるわらづと納豆作りをふれあい福祉センターの調理室で行いました。市の広報や週刊長野新聞により親子15名の募集をしたところ、98名の応募がありびっくりでした。

参加者は抽選で選び全員が初めての経験です。本来なら土間や外でわらすぐりをしますが、調理室ではゴミやほこりが出るので、予めすぐったわらと生ごみ堆肥で育てた浸し大豆を用意しました。大豆を蒸してる間にすぐったわらを折り曲げ両端をタコ糸で結んだわら苞を湯煎します。わらづとが人肌位に冷めたら蒸し大豆をわら苞の中に詰めます。これで2,3日間人肌より少し熱い位の所(炬燵や湯たんぽなど)に置いておけば、わらについている天然の納豆菌が大豆のたんぱく質を発酵させてあの独特な匂いと粘りが出ます。発酵促進のために既成の納豆を入れる人もいますが、私の経験では無農薬有機栽培の稲わらなら入れない方が良く発酵します。



プロジェクトリーダーから一言

私が生ごみチームのリーダーとなって18年になります。それまで5年間率いた前リーダーの安藤さんが、72歳になるので私からリーダーに申し出たのです。今、私はその年齢を超え、展示や講座などの啓蒙活動だけでなく、実践活動としてキッズ生ごみ農園クラブを始めて8年になります。正直言ってキツイこともありますが、90歳の安藤さんが頑張っているのだからと気合を入れてやっています。

キッズ生ごみ農園の会員は、8年間ずっと更新されてる方と毎年新メンバーが加わるので時の流れを感じるとともに、食と農と環境に対する考えに一貫したものを持っている人がいるので救われます。そんな中で今年も日本無線(株)が10人分の家族会員に登録し、参加する家族は変わっても活動を定着して支えていただけるのはありがたいことです。同時に信大工学部の地域環境演習の学生が参加することで、若者の湧きとした息吹に元気をもらっています。

住民自治協議会主催の生ごみ減量講座を安茂里と若槻地区でそれぞれ開き、朝市やフェスタに参加して会のPRと野菜販売をして地域との結びつきを続けています。



リーダー
河西 弘明

市民の森づくりプロジェクト



市民の皆さんに喜んでいただけるような森づくりに取り組んでいます。

里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、森林整備・自然観察・きのこ栽培・かんじき作りなどの活動を行いました。



主な私たちの活動を紹介します



きのこの駒打ち

11月下旬にホダ木用の木を伐採し、4月に玉切り、きのこの駒打ちを行いました。秋の収穫を夢見で頑張って作業に取り組みました。駒打ちの後は林内に敷設。乾燥を防ぐために少し埋めたり、落ち葉を掛けたり、敷設する場所を考えるのもなかなか難しいものです。

きのこの駒打ちには、一般市民の方にも参加を予定していたのですが、準備が間に合わず残念ながら会員のみで作業をおこないました。

市民の森の整備

月2回、定例整備日を設け、ボブスレー・リュージュパーク周辺の森を中心に森の整備を実施しています。

森は放置していると枯れ木が倒れてきたり、ツルが絡んでヤブ状態になったりします。

皆で愉しく、そして安全が第一で作業を実施しています。



かんじき体験会

2月にはリョウブの細い木を輪にした「かんじき」を作り、雪の上を歩くというイベントを行いました。

かんじき作りは、久しぶりだったので思い出しながらの作業でした。



自然観察、センサーカメラによる動物生体観察

8月下旬、市民の森の中でミズナラの枝の先が2～3cmくらいの長さで切られたものがたくさん落ちてました。枝がハサミで切ったようにきれいに切れていて、小さいドングリがついてます。

これは、ハイイロチョッキリという甲虫が未成熟なドングリに卵を産みつけて、その枝を切り落としたものだそうです。

ミズナラの枝先が落ちているのを今まで何度も見て、その都度なんだろうと疑問に思っていたような気がするのですがようやく謎がとけました。

森の中にセンサーカメラを設置して動物の生態を観察しました。

毎日、同じ時間にヒメグルミの木の下に現れるタヌキ、帰っていくのもほぼ同じくらいの時間でした。暗闇の中から目を光らせて6頭のイノシシが現れる場面は迫力ありました。

2mくらいの距離を飛んでカメラに向かってくるリスにも驚かされました。



プロジェクトリーダーから一言

山の作業を通して仲間と出会い、語り、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何か、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちにできて、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リュージュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない藪々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。



リーダー 内山 寛純

松代オオムラサキの里



松代オオムラサキの里の環境保全に取り組んでいます。



私たち「松代オオムラサキの里」は、オオムラサキをはじめとする様々なチョウが飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組んでいます。



主な私たちの活動をご紹介します

①オオムラサキ観察会開催(小学校/一般)

6月下旬から7月にかけてオオムラサキが成虫になる頃にオオムラサキ観察会を開催しています。

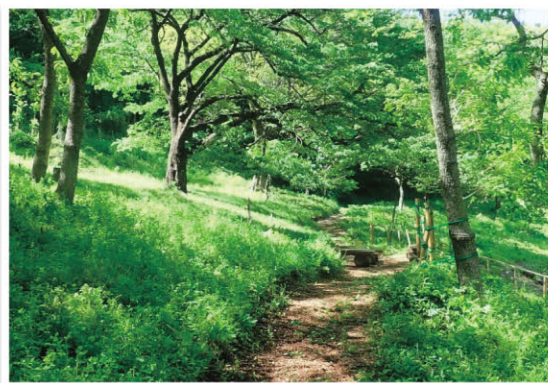
毎年、松代地域の小学校6校が授業の一環としてオオムラサキの観察に訪れています。

里山遊びとしてエノキの実を使った「えのみ鉄砲」も楽しみました。



一般市民対象の観察会には約150名の方が参加しました。オオムラサキの幼虫・蛹・成虫をはじめ様々な昆虫や植物を観察することができました。

また、新設した自然観察道をお披露目し、ガイドツアーも実施しました。



②自然観察道の新設

昨年度の信州大学工学部地域環境演習の学生さんが立案した、自然観察道を作りました。

道の掘り起こしから整地まで、約3か月かけて完成しました。

小生物や植物が観察できる遊歩道として活用しています。



③環境整備



オオムラサキの生息環境を保全するため、エノキやクワ等の間伐を行なっています。

また、定期的に草刈りを行ない、自然観察園としての環境づくりをしています。



④信州大学研修生受け入れ



信州大学の地域環境演習として3名の学生さんが参加し、オオムラサキの里の環境整備を一緒に行ないました。

オオムラサキ観察会では、自然観察道のガイドとして参加者を案内してもらいました。

また、改版した自然観察ハンドブックの制作もサポートしていただきました。

⑤自然観察ハンドブックの改版



以前制作した自然観察ハンドブックの在庫がなくなったためハンドブックを改版しました。

冊子はA5サイズで、表紙を含めて全24ページです。これまでのハンドブックより4ページ増やして、昆虫や動植物の紹介を多くしました。

ハンドブックはオオムラサキ観察会等で配布しています。

プロジェクトリーダーから一言

“オオムラサキの里について思う”

私達「松代オオムラサキの里」は松代町竹ノ入でオオムラサキの保護活動をしています。活動を始めた10年前に比べオオムラサキの発生が減少ぎみでしたが、ここ数年は回復傾向にあります。しかしまだ満足するにはほど遠い状態です。私達はどのように自然に接し、オオムラサキを増やすにはどのようにすべきか？ オオムラサキが「竹ノ入」の空に乱舞する姿を夢見ながら、会員の皆さんや一般市民の方々の知恵や情報を頼りに前に進み、生育環境の整った「オオムラサキの里」を次世代に引き渡したいと思っています。



リーダー 杉山 茂樹



絶滅危惧種ゴマシジミの保護

私たちチームは、この活動を始めて7年目です。
 雨の多い年、気温が上がらず花の咲く時期が遅い年など、
 様々に変化する自然環境とそれから受ける生態系にどのよ
 うな変化が起きるのか観察してきました。
 これらを記録に残し自然環境保護の重要性を次世代につ
 なげていければと更なる活動の充実を図ります。



主な私たちの活動を紹介します

ゴマシジミって何?

シジミチョウ科の草原に住む蝶で環境省のレッドリストの「絶滅危惧種 I A類」に指定されている。

現在県内では松本市奈川地区と長野市浅川地区にだけに生息し近い将来に絶滅する危険性が極めて高いため両地域とも保護活動に取り組んでいる。

蝶の大きさは開張40mmほどで薄黒い羽の表面には青い鱗粉がキラキラと輝いている。羽の白っぽい裏面には名前の通り黒のゴマ模様が点々とみられる。

生態系は食草のワレモコウとクシケ蟻とのトライアングルの関係にあり、非常に興味深い。

成虫はワレモコウの花に産卵し、そこで孵化した幼虫が成長して地面に降り、クシケ蟻と出会うと（ほかの蟻はダメ）幼虫は蟻の巣に運ばれ冬を過ごす。

幼虫は蟻の卵か蟻の幼虫を食べ成長、蟻の幼虫の出す体汁を求めて過ごしていると思われる。やがて暖かくなると幼虫は蟻の巣を離れ、朽ちた木などの下でサナギとなり7～8月に成虫となる。丁度その頃がワレモコウの花の咲く時期にあたる。



注：浅川地区生息地に大阪公立大学 上田准教授の研究室でクシケ蟻調査に入るも、いまだ蟻の発見に至らず。



保護活動 1) 生息地域の整備「林の間伐、草原の草刈り」

※ 他の草との関連性の調査の為一部の草を残す刈り方

保護活動 2) 食草「ワレモコウ」の植栽

※ 生息地で収集した種子を育苗 …………… 浅川小学校 4年生 (46人)

※ 現地植栽 …………… 関係者による移植作業





保護活動3) 「マニアによる密猟、乱獲防止、注意喚起」



- ※ 蝶の発生時期から産卵終了時期までのパトロール。(2人1組・延べ21名)
- ※ マニアによる密猟・乱獲防止と注意喚起看板設置。
- ※ 防犯カメラの設置。
- ※ 「がんばれ! ゴマシジミ」物語の紙芝居上演による勉強会と現地での説明会



密猟者は5年以下の懲役又は500万円以下の罰金に!



浅川地域あけてのゴマシジミの保護育成活動



食草のワレモコウの苗を植え替え



蝶が生息する長野市霊園現地見学



「にこにこ一座」が上演



北部中美術部が制作



ひかり幼稚園で上演

**ゴマシジミは環境省のレッドリスト
絶滅危惧種 1Aに指定されていて
絶滅寸前の貴重な蝶です!**



ゴマシジミの成虫 花に産卵 ワレモコウを食べて育つ幼虫 天敵のウモに捕まる!

ゴマシジミの最大の天敵は密猟者です



ゴマシジミ保護育成の先進地・松本森川視察 ロープや看板を設置 密猟者は5年以下の懲役と500万円以下の罰金



ゴマシジミの生息地をパトロール



青い鱗粉が目立つ翅を広げたゴマシジミ

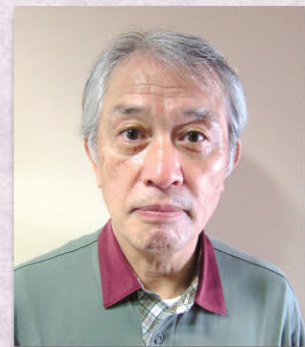
**長野市浅川地区住民自治協議会
まちづくり委員会・ゴマシジミ保護育成チーム**

制作 北條昭吾

プロジェクト事務局から一言

浅川まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」とおして、里山の整備、自然環境の保全の大切さを学び、浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図りながら、次世代への財産として繋がればと考えています。

今後も生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究にいつそう取り組み、地元の資産として多くの人達から感心を持ってもらうよう、継続性のある活動を目指したいと思っています。



事務局 下村 守昭

田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト



里山の保全＝さくら公園作り に取り組みました

令和5年6月から令和6年5月までの活動で、田中桜公園の維持管理活動に取り組みました。その結果、このような桜祭りを開くことが出来ました。



主な私たちの活動を紹介します

桜公園祭り

気候変動の中、いつ行うのが適切か、迷った今年でした。昨年は、4月4日には満開状態でした。今年はどうなるか。2/3月の状況では、全国的に開花が遅れるとの情報でした。あれこれ迷ったあげく、4月13日(土)に設定。

さて、当日は願ったりの晴天。

集合は避け、恒例の豚汁は昨年に続きやめるかたちでしたが、気持ちよい天気の中で、田中桜公園からの絶品眺望を満喫しながら、サクラの手入れ、竹の駆除等、公園整備に取り組みました。

昼過ぎ、飯綱町のイベント「いづなトレイルランニングレース」出場の選手が続々と桜公園の中を走る水道道を駆け抜けていき、これを応援する一幕もありました。



トレイルランレース
桜公園を駆け抜ける選手たちを応援！



お花見しまし
う
田中さくら公園
桜公園祭り
4/13(土)
10時00分開始
田中桜公園
13時まで



EVENT

桜公園祭り、開催します！
太陽熱クッカーポップコーン
わた飴、珈琲、甘酒もどうぞ
〔ボランティア募集〕飛び入り歓迎！
竹切り・竹炭づくり

桜13日は見頃を迎えそうです。今年は桜公園祭りを見頃の桜の中で行います。

初めてのタイプの大歓迎！二様に楽しみましょう。いろいろなタイプの桜が咲いて来ますので、この2週間くらいは毎日桜の見頃。春の善光寺平・志賀高原の山々と共に風景も桜も楽しみましょう。

ご友人・ご家族で桜茶・甘酒を飲み、おいでなして。ピクニック気分に参加を！

お酒・お弁当・動物のご用意は各自各グループにての好みのスタイルで。

晴れば、太陽熱クッカーを使ってポップコーン、お茶・コーヒー、曇り空でも「わた飴」をどうぞ。恒例となった『甘酒』もどうぞ。

竹林の伐採整備作業に参加できる方は、竹を引くノコギリがあれば、ご持参いただけるとありがたいです。また、作業用手袋などあればご持参をマスクもご持参ください。

私どもは、長野市環境パートナーシップ会議に加盟し、田中桜公園づくり&里山づくりプロジェクトチームとしていろいろな援助、応援を受けております。あなたもチームに入りませんか。チーム参加希望者は関係者にお伝えください



プロジェクトリーダーから一言

環境パートナーシップ会議に参加させていただき、はや6年。

コロナ禍への心配はありますが、今年も昨年を上回る、希望の膨らむ春を迎えることが出来ました。

地域への夢と希望を持ち、子どもたちからご老人まで、またご家族でと里山に親しむプロジェクトを進めたいと思います。



リーダー 上條 補喜

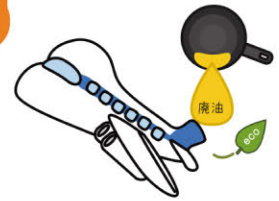
若槻廃食用油回収プロジェクト



ご家庭で使用済の天ぷら油を回収し、資源として、再利用しています



主な私たちの活動を紹介します



事業の概要

これまでご家庭で、処分が困っていた天ぷら油を回収して、資源として、再利用する活動をしています。ご家庭で、ペットボトル等任意の容器に入れて、自治体リサイクルセンターに持ち込み。計量カップで計量したあと、特製金網を通して油粕等を取り除き、用意したペール缶（20L）に注入して、保管庫に一時保管。満杯になった時点で、収集運搬業者に引き取ってもらい、精製工場に搬入。そこでBDF（バイオディーゼル燃料）を製造。ディーゼル車・重機・発電機・SAF/航空機の燃料及び、塗料・石鹼の原料など、各用途に利用されています。

回収は、毎週土曜日9：30～11：30 若槻団地自治会館リサイクルハウス前で行われ、会員スタッフが交代（当番制）で立合います。1回で平均して約5L、月にして約20L（ペール缶1缶）が持ち込まれます。持込者には、ささやかではありますが、粗品（トイレットペーパー1巻き）を差し上げています。（但し、動物性油脂（ラード・バター等含むもの）及び、古い油（5年以上経過もの）は、回収できません）

これは、長野市が行っているサンディーリサイクル事業を補完するものですが、住民が持込易い、より身近なところで回収するもので、地域住民から大変喜ばれています。

本事業は、2023年6月、若槻団地自治会区長経験者の有志5人で、プロジェクトを発足。その後、協力者が増え、今では10名程で構成。さらに若槻団地区長OB会の後援もいただき、協力の輪が膨らんでいます。

前年度回収実績

| | | |
|--------------------------|------|--------|
| ・ 令和5年度（2023年6月～2024年5月） | 持込者数 | 274人 |
| ・ | 回収実績 | 218.5L |



（リサイクルハウス全景）



（天ぷら油注入）



(夏の回収作業)

令和6年度基本方針

- ・ 定例回収作業の継続
- ・ 各種イベントに参加
- ・ セミナーの開催
- ・ 他地区での事業立ち上げへの協力
- ・ 地域環境保全の啓蒙活動の推進

事業計画（主なるもの）

- ①信州環境フェアに参加 2024年6月
- ②ながの環境フェアに参加予定
- ③コミわかフェスティバルに参加予定

今後の課題として

- ①他地区への認知・展開
- ②広報の拡大・セミナーの開催
- ③環境関連諸官庁及び団体の協力
- ④若者の参画



(冬の回収作業)



(スタッフ勢揃い)

終わりに

地元住民主体で立ち上がった当活動ですが、一自治体だけでは、大した量にはなりません。我々だけでなく、他地区へ広がっていくことが、何より念願するところです。そのための協力・支援は惜しみません。大河の一滴になりたい。

プロジェクトリーダーから一言

ながの環境パートナーシップ会議の一会員として、プロジェクトサポーターの直富商事様のご支援とご協力をいただき、1年間やって来ました。今や天ぷら油がジェット機の燃料になる時代、脱炭素・地球温暖化防止に貢献し、資源の有効活用に尽力して行く所存ですので、これまで以上のご支援をよろしくお願いいたします。



リーダー 轟 光昌

「地域環境演習」における活動報告

信州大学工学部物質化学科 錦織 広昌

本学部学生向けの選択科目である「地域環境演習」では、受講生の実践的環境教育の場として、ながの環境パートナーシップ会議のプロジェクトに参加させていただいています。前期に、「地域環境演習Ⅰ」として1単位を修得すると、その後「地域環境演習Ⅱ」として、もう1単位を修得することができます。2023年度の受講生は、(1) 松代オオムラサキの里（3名）、(2) 生ごみ削減・再生利用（3名）の2つのプロジェクトチームに参加しました。近年は受講者数が少なくなっていますが、この年度は全員が前期に「地域環境演習Ⅰ」、後期に「地域環境演習Ⅱ」として1年間を通して参加し、環境配慮への意識がとても高い学生たちばかりでした。

松代オオムラサキの里では、多くの人に保護活動の意義を知ってもらうことを目標に、ネイチャーガイドの作成、パンフレットのリニューアル、立札の試作などを行いました。また、市民対象の観察会の準備や、当日の案内など、日頃できない貴重な体験をさせていただきました。里山の維持管理、町の活性化、地域同士の交流の大切さに関して学ぶことができました。

生ごみ削減・再生利用では、農産物資源の循環促進を目標に、各種野菜の種蒔・栽培・収穫、生ごみ減量講座、段ボールコンポスト運用、キッズ生ごみ農場の運営、アモーレフェスタ出店、納豆づくりなどたくさんの方々の農作業・イベントなどを体験・お手伝いさせていただきました。生ごみを削減する活動、農作物を大切に育てて無駄なく食することの重要さと楽しさを感じている様子がうかがえました。

いずれのチームも、受講生たちはプロジェクトメンバーの方々とコミュニケーションを取りながら、なんとか役に立てるよう自ら学び行動するひたむきな姿勢がみられました。

以上のように、ながの環境パートナーシップ会議の皆様には、本学学生の成長にお力添えくださり感謝しております。学生たちには若い力とアイデアを期待されていると思います。特に、インターネットを適度に活用した広報活動などは、プロジェクトの継続のためには非常に重要となるので、学生の力に期待をしています。われわれ教員としてもさらに協力して参りたいと思います。



▲観察会の様子



▲看板落成式の様子



事業者の皆さんと連携強化

プロジェクトサポーター制度の紹介

プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者から人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開しています。

日本無線株式会社



生ごみ削減・再生利用

コマキ工業株式会社
中澤勝一建築株式会社
信州塚田土建有限会社



松代オオムラサキの里

直富商事株式会社



若槻廃食用油回収

「プロジェクトサポーター」「賛助会員」大募集中！

各プロジェクトに直接支援いただく「プロジェクトサポーター」、ならびに本会の「賛助会員」となってもらえる事業者を募集しています。登録いただいた事業者については、本会のホームページや公式Xにて、掲載・周知をさせていただきます。詳細は、ながの環境パートナーシップ会議事務局までお問い合わせください。



脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

環境省

デコ活

暮らしの中のエコロがけ

「デコ活」は、暮らしを豊かにし、CO₂を減らす環境にやさしいアクションです。
(De+CO₂) (Eco)



デコ活宣言して、
あなたもデコ活に取り組みませんか？

- 宣言1 製品、サービス、取組展開を通じてデコ活を後押しします！
- 宣言2 生活・仕事の中で、デコ活を実践します！



デコ活宣言は
こちらから



長野市では、2050年ゼロカーボンの実現に向け、家庭からの温室効果ガス排出削減を目的に、事業者と協働して住宅の低炭素化に資する創エネ機器等の普及を図る、「長野市スマートハウス化応援隊事業」を実施します。



長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835長野市新田町1513-2(82プラザ長野)
TEL 026-237-6681 FAX 026-237-6690
URL <https://www.eco-mame.net/>



団体・企業も

新会員募集中!!

入会のお申し込み・お問い合わせ先

ながの環境パートナーシップ会議 事務局

長野市環境保全温暖化対策課内

〒380-8512

長野市大字鶴賀緑町1613番地

TEL.026-224-5034

FAX.026-224-5108

E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp

<http://www.nagano-ep.net/>

こちらまで
どうぞ。



イメージキャラクター キラピー

山の緑も川の水も空の星も人の心も、
長野市中の環境も人も未来もキラキラと輝き、
生き生きと暮らせるように、という願いが込められています。

入会申込書は、ながの環境パートナーシップ会議事務局に用意してあります。また、本会のホームページからもダウンロードできます。必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、ファックス、電子メールのいずれかでお送りください。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう(年会費一口500円)。
18歳以下&学生の皆さんの会費は無料です。



長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835

長野市新田町1513-2

(82プラザ長野)

TEL 026-237-6681

FAX 026-237-6690

E-mail eco-mame@dia.janis.or.jp

<https://www.eco-mame.net/>



ながの環境パートナーシップ会議
令和5年度活動成果報告書

「手をむすんで」

令和6年9月発行

編集発行：ながの環境パートナーシップ会議、長野市地球温暖化防止活動推進センター

印刷・製本：中外印刷株式会社



PRINTED WITH
SOY INK

環境保全のため、再生紙および大豆インクを使用しています